

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	豊橋市立高山学園		
○保護者評価実施期間	令和7年11月27日		～ 令和7年12月9日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	40名	(回答者数) 36名
○従業者評価実施期間	令和7年12月9日		～ 令和7年12月19日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	20名	(回答者数) 20名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月10日		

○分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保育士経験の豊富な職員が多く、子ども達を丁寧にかつ多様に捉え、生活や遊びの中で支援内容を取り入れながら療育を行うことに特化している。	専門職や外部講師による助言、オンライン研修などで障害や発達、特性についてなど専門的な見方や支援方法を学び、各々の職員のスキルアップを図っている。	フォーマルなアセスメントシートを導入し、子どもの発達を見立て、支援に結び付けられる専門的な療育力の育成を図っていく。
2	園児40名についてミーティングなどで必要な情報共有を行い、園全体の保育士が安全で適切な関わりが持てる体制を築けている。	療育目的を共有し、療育終了後に情報交換の時間を意識して作るようにしている。クラス交流を行うなど他クラスの園児の様子や療育内容を共有できるようにしている。	職員間で話しやすい雰囲気を作り、報告連絡相談がきちんと行われる体制作りに加え、助言や提案ができる関係性を築いていく。
3	保護者会をはじめ保護者の方々の理解と協力体制がある。また、本園を卒園した保護者と交流の機会があり情報や助言などをいただくことで家族支援につながっている。	気軽に参加したり話したりできる雰囲気づくりをしている。保護者の願いや要望に向き合ったり、療育方針に理解いただけるように分かりやすく伝えるよう心掛けている。	保護者会と連携してより良い運営ができるようにしていく。アプリの連絡帳やドキュメンテーションなど、様々なツールで療育内容を具体的に発信していく。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	理学療法士や作業療法士、言語聴覚士といった専門職が常駐していない為、関わりや環境構成などで悩んだ時に速やかに専門的な助言を得ることができない。保育所等訪問事業など児童発達支援センターとしての役割が果たせていない。	こども発達センターと密に連携をとりながら療育を行っているが、園に専属の専門職が配置されていない。	R7年度はこども発達センターの巡回相談の回数を増やし、ケース検討や園内研修などの充実を図ってきた。R8年度は園専属の作業療法士を配置し、保育所等訪問事業などを実施していく。
2	書類等の説明が不十分であったり、保護者の知りたい情報が速やかに発信できていないことがある。	保護者と面談する時間が十分に持てていない。保護者の知りたいことを十分に把握できていない。	計画的に保護者との面談の時間を設け、保護者の思いや考えをしっかりと聞いていく。
3	施設の立地上、送迎に時間がかかり、保護者の要望の場所までバス送迎ができない。また、療育時間に加えて延長支援を開始したが、希望する時間をすべて満たせていなかったり、日中一時支援などの事業を行っていないため、就労している家庭への支援が難しい。	家庭のニーズに合わせた福祉サービスを検討していく必要がある。	R7年度より延長療育を開始。今後も相談支援専門員や関係機関と連携を図り、療育が受けやすい環境づくりに努めていく。